

主要国・国際機関等のニュース記事一覧

対象期間		2025年1月6日～2025年2月11日																		
注目記事	No.	公開日	機関名	キーワード	ニュースタイトル(原文)	ニュースポイント(短文)	内容	感染症種別	ニュース種別										リンク1	リンク2
									当該機関の戦略/方針	ワクチン開発進捗	取組		資金提供			イベント	組織設立・再編	感染症状況		
										当該機関	支援対象	重点感染症	その他疾患	外部から当該機関へ						
	1	2025/1/6	CEPI	US DFC, 将来的なパンデミック、ワクチン研究開発	CEPI and the US DFC join forces to tackle future pandemic threats	CEPIと米国DFC(国際開発公社)が、持続可能なパンデミック・ファイナンス・ツールの検討や現地のワクチン製造能力向上など、世界的なワクチン・イニシアチブに関する議論と投資を一致させることで協力し、保健の安全保障を推進する意向を発表した。この声明は、2024年12月に開催されたDFCの5周年記念行事の場で発表された。CEPIとDFCは、相互の利益になる革新的なワクチンや感染症対策技術に対する共同の投資を行う。さらにCEPIは、将来のアウトブレイクに備えたワクチン研究開発、ワクチン製造とそのスケールアップ活動を支援するための革新的な金融メカニズムの設計と実施について、DFCを支援する。	感染症全般	●		●	●							リンク		
★	2	2025/1/8	CEPI	将来的なパンデミック、Disease X、針なしワクチン、マイクロアレイ	CEPI and Micron Biomedical accelerate needle-free vaccines against Disease X	CEPIが、Micron Biomedical社による針なし経皮ワクチン(マイクロアレイ・ボタン)の研究開発に370万米ドルを拠出することを発表	CEPIは、米国アトランタに拠点を有するMicron Biomedical社による針なし経皮ワクチンの研究開発に370万米ドルを拠出することを発表した。同社の技術は、小型で熱安定性を有する可溶性のボタン(マイクロアレイ)を皮膚に貼り付け、ワクチンや医薬品を皮膚上層部に注入するもので、投与は短時間で完了する。本技術により、ワクチンの保管・輸送における冷凍保存の問題が軽減され、さらに臨床医不足や注射針恐怖症の問題に対処できること期待される。本技術を用いて季節性インフルエンザ、麻疹のワクチン接種を行い、血清防御を誘導することが示された結果が既にLancetに掲載されている。適切な科学的マイルストーンが達成されれば、針を使わずにヒトに投与する史上初のフェーズ1試験を開始する予定である。	感染症全般		●	●	●	●						リンク	
	3	2025/1/8	WHO	三日熱マラリア、G6PD欠損症、検査法、事前認証	WHO prequalifies diagnostic test to support safer administration of P. vivax malaria treatments	WHOが三日熱マラリアの安全な治療法を実施するために、グルコース-6-リン酸脱水素酵素(G6PD)欠損症の検査法を事前認証(PQ)したことを発表した。三日熱マラリア原虫(Plasmodium vivax)により引き起こされる三日熱マラリアは、2023年時点で欧州を除く全地域で推定920万人の臨床患者を発生させている。三日熱マラリアの再発防止のために投与される、ある種の医薬品は、G6PD欠損症の患者に急性溶血症を引き起こすことが知られている。事前認証された診断法はSD Biosensor, Inc.によって開発され、G6PDの酵素活性を測定してG6PD欠損症を診断する。検査室内外での使用を目的としており、STANDARD G6PD Analyzerと併用することで、数分で結果を得ることができる。本技術により、三日熱マラリアのより安全な治療が可能になると期待される。	マラリア			●		●						リンク		
★	4	2025/1/13	BARDA	パッチ型ワクチン、mRNAワクチン、Patch Forward Prize, Project NextGen	BARDA announces \$8 million in awards to advance patch-based RNA vaccine development as part of the Patch Forward Prize	BARDAが、Patch Forward Prizeの一環として、パッチベースのRNAワクチンの研究開発プロジェクト4件に800万ドルを拠出	BARDAは、Patch Forward Prizeの一環として、パッチベースのmRNAワクチンの研究開発プロジェクト4件に800万ドルを拠出することを発表した。Patch Forward Prizeは、Project NextGenの一環として実施されており、迅速で容易なワクチンの製造と投与を可能にするために、マイクロニードルを用いたパッチベースの経皮ワクチンの研究開発を推進することを目的とする。ワクチン開発企業がパッチ製造企業と連携することを求めており、今回はコンセプト段階にある4案件に対して、それぞれ200万ドルを助成する。採択されたのはMicron Biomedical社など、ワクチン開発企業4社とその共同実施者で、COVID-19、季節性インフルエンザ、パンデミック・インフルエンザに対するパッチベースのmRNAワクチンの開発を進める。	コロナウイルス感染症、インフルエンザ			●	●	●					リンク		
★	5	2025/1/16	BARDA	COVID-19、治療薬、曝露前予防、塩野義製薬、Project NextGen, RRPV	ASPR provides \$375 million to develop a drug to prevent COVID-19	ASPRがProject NextGenの一環として、塩野義製薬が行うCOVID-19に対する長時間作用型注射剤の研究開発に3億7,500万ドルを提供	BARDAは、ASPRが塩野義製薬によるCOVID-19治療薬の研究開発に約3億7,500万ドルを拠出することを発表した。この助成はProject NextGenの一環として行われ、塩野義製薬は長期間作用型注射剤による新型コロナウイルス感染症の曝露前予防の研究開発を進める。本技術はプロテアーゼ阻害剤をベースとしており、SARS-CoV-2がヒト細胞内で自己のコピーを作るのを阻む。このような予防薬は免疫不全の患者等に対して重要である。今回の支援は、ASPRによるRapid Response Partnership Vehicle (RRPV)コンソーシアムの最新の取組みである。	コロナウイルス感染症			●	●	●					リンク		
★	6	2025/1/20	CEPI, IVI	リフトバレー熱、mRNAワクチン、Afrigen社	South Africa's Afrigen to develop human mRNA Rift Valley fever vaccine	CEPIが、南アフリカのバイテク企業Afrigen社が実施する最先端のmRNAワクチンを用いたリフトバレー熱ワクチンの研究開発に620万米ドルを拠出	CEPIは、南アフリカのバイテク企業Afrigen社が実施する最先端のmRNAワクチンを用いたリフトバレー熱ワクチンの研究開発に620万米ドルを拠出することを発表した。Afrigen社は、IVIと連携し前臨床試験から南アフリカなどのアフリカ諸国で実施する第1相試験へと進展させる。動物用のリフトバレー熱ワクチンは認可されているが、ヒト用のワクチンはこれまで利用可能または認可されたものもなく、WHOやアフリカCDCはリフトバレー熱を優先対象疾患として認識している。今回のワクチンはリフトバレー熱に対する初めてのmRNAワクチンとなる。このプロジェクトで作成された臨床試験および疫学データは、より広範な公衆衛生および研究コミュニティに役立つよう、オープンアクセスで公開される予定である。	その他		●	●	●	●					リンク		

